

よりそう

Side by Side



支援物資を確実に届ける。

第1話

大阪・岬町 三重野靖充

支援物資を送った場合、被災者へ確実に届いた事がわかることは、迷った側としては嬉しいことです。私の参加しているプロジェクトは、①確かに団体として受け取る。②物資をトラックに積み込む。③被災者に受け渡す場合の3枚の写真を、その3枚をメールで送り手に送信。「あなたのあつたところの支援物資は確かに、このように届きました。」と礼状がきています。このプロジェクト、中心に人材の理想が高く、体育館・和室組のボランティアの意識の差が大きく、なかなか継続して参加してくるボランティアを確保できず悩みの種でした。このプロジェクトへの私の参加は、先月8月31日をもって一応の区切りとします。思えば、5月から遠野まごころネットにかせ話にあって3月22日になりました。ありがとうございました。(間主：三好)

被災者のご家族のお話

第2話

支援物資を送り届ける途中、道の駅で仮休。活動中の2人のTシャツ見て、50代の男性が声をかけてこられました。「ボランティアの方ですか。ご苦労様です。私は、地元出身の者ですが、現在、妻子と共に福岡で生活しています。お金の面で里がえりしたの？。家は流されましたか、両親は元気ですか。」お金の多い親戚・知人が亡くなり、親戚を別れた行方不明の？が、一軒家を建て、今70代に顔を出さねばなりません。御香料を拝見いかねばなりませんので、お金を多く貯めて、破産せず、それが自分の家財、お墓参りをして帰って来た所です。

この大震災で沿岸部の多くの企業が工場・倉庫を流石、働いて10人はやめさせられました。この7月に、た。サラリーマンは、被災者証明を出して63万人、義捐金は受け取れず、公的援助も受けられず。役場・市役所へ行って門前払い。これらの人々の中が自殺者が出かねない悲惨な状況です。

私も地元に戻って救援活動が（10月まで）家族を犠牲にしてまで、救援活動にこころを注ぎたい。だからボランティアの人々の力にすがりたいのです。よろしくお願いします。

話すと涙が止まらずお互いに涙を流しながら1時間の会話でした。(新聞には載らない実話です)
(間主：三好)



三重野靖充さん

日刊に啓か中

まごころ種 募集

くわしくはHPへ

8/27(土)ボランティアミーティングはPM15:30～@体育館
8/26(金)の宿泊：200人、活動：450人

8/27(土) 天気 晴時々曇り

気温 25℃ 18℃

降水確率 0%